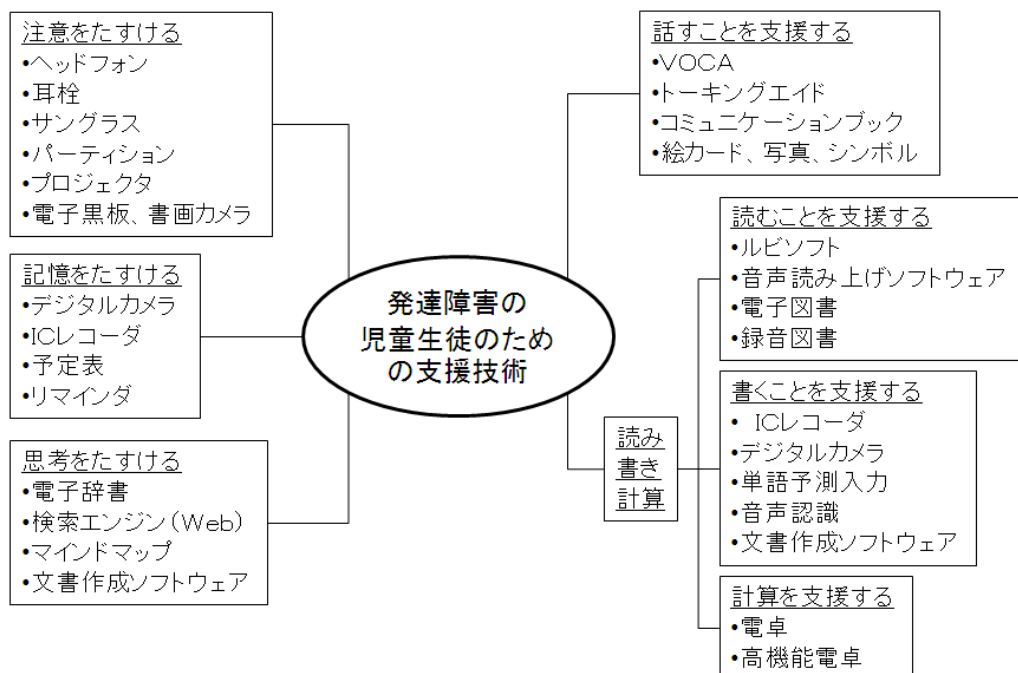


<ICT活用のための参考資料③>

発達障害の児童生徒のための支援技術と活用例

32ページの活用例も参考にしながら、発達障害の児童生徒の苦手な面を補うとともに、得意な面を伸ばすための活用法を考えることが大切です。



困 難	活 用 例
・周囲の音が気になる	・ノイズキャンセリングヘッドフォンの活用
・コンピュータ画面を見るのがつらい	・フラッシュや振動による情報の伝達（緊急連絡等） ・OSのコントラストの変更機能や画面の減光ソフトウェアの利用
・背後からの呼びかけに驚く	・電子メールや電話での呼び出し
・人の気持ちが読み取れない	・電子メールの利用
・目を合わせて会話するのが苦手	・電子メールの利用
・見て覚えられない	・デジカメによる撮影
・話の内容が聞き取れない	・ワイヤレス補聴システムの利用 ・電子黒板の利用
・話の内容が理解しにくい	・電子黒板の利用 ・マッピングソフトウェアを用いた視覚化
・見通しが立ちにくい	・タイムエイドやスケジュールボードによる見通しの可視化
・約束の時間を忘れやすい	・携帯電話のアラーム機能の活用 ・電子手帳や携帯電話、PDAのスケジューラーの活用
・忘れ物が多い	・電子手帳や携帯電話、PDAのToDoリストの活用
・聞き取って覚えられない	・ICレコーダーなどへの録音
・メモをとるが他人に読めない	・ワープロ、PDA、ICレコーダーによる記録
・読み間違いが多い	・録音したものを聞く ・電子メールなどで電子化した文書の利用 (フォント、文字サイズ、行や文字間隔、ルビ、音声読み上げ等)
・書けない	・デジカメによる撮影 ・ワープロの利用 ・音声入力を文字化するソフトウェアの利用
・語の意味が分からない	・電子辞書の利用 ・なぞることで引ける電子ツールの利用

「発達障害のある人の職業訓練ハンドブック」（職業能力開発総合大学校能力開発研究センター）より抜粋